
とある少女の尋問時間

竜王の白翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある少女の尋問時間

【Nコード】

N7728S

【作者名】

竜王の白翼

【あらすじ】

これはとある少女の悲劇（笑）の話である…

（前書き）

設定

みんな仲良し

時間軸が微妙

たぶんどっかおかしい

第7学区の大通り

「ねえねえ、このまま帰るのも暇だから公園へ行こう！ってミサカはミサカは元気いっぱいアナタを誘ってみたり！」

「断る。ねみイからとつと帰るぞクソガキ」

「ダメだよ親御さん。親御さんは子供の要望を叶えなきゃなんだぜ」

「俺は親じゃねエ」

「え？じゃあ何？性的興奮の対象？うつわゝ第1位ロリコンなんだ」

「今すぐ愉快的オブジェになってみるか？」

「オウ、さすがに死ぬのはゴメンだね。でも、虐待だったら公衆の面前でもOKよ」

「身をくねらせんな。気持ちわりイ」

「ねえ公園へ行こうよ！ってミサカはミサカは涙目上目づかいで頼んでみたり」

「…チツ。すぐ帰ンぞ」

「よーし！それでは今話題の公園へしゅっぱーっ！ってミサカはミ

サカは隊長気どり！」

「やっぱロリコンじゃん第1位。てか話題の公園でどこなの上位个体？」

「それはね…」

第7学区の公園

（アイツそろそろここ通る時間よね…今日こそ一端覧祭へ誘って…）

「こんなとこで何やってんだ御坂？」

「うにゃあー？」

「急に可愛い猫みたいな声あげんなよ…で、何やってんだ？」

「か、かわ…／＼にゃんでもないわよ！／＼／」

「あの…盛大に噛んでますよ御坂さん」

「愉快に素敵に少女マンガのヒロインやってンなア、超電磁砲」

「お姉さま久しぶり！ってミサカはミサカはできる子らしくあいさつしてみたり！」

「打ち止めに番外個体に一方通行！？いつからここに…」

「か、かわ…からこの公園にいたぞ」

「え…」

「ねえ第1位。すごくおもしろいこと思いついたんだけど」

「デメエと考えかぶるとはなア。俺も思いついたとこだ」

「な、何よ…2人して嫌な笑み浮かべて…」

「おごってやるよ超電磁砲。悩んでンならお兄さんが相談にのってやるぜ？拒否権はなしだ」

「……不幸だわ」

ファミレス

「わーいチョコレートパフェだぁーってミサカはミサカはさっそくがつついてみる！」

「しかしお姉さま顔真つ赤だったねーもしかして好きだったりする？」

「そ、そんなにやわけないわよ／＼／」

「顔真つ赤になってンぞ。コイツは確定か？」

「だから違うつて言ってるでしょ！／＼／」

「ねえねえお姉さま」

「何よ」

「今まで何回イヤらしいこと考えてきた？」

「ブッ！？んなことするか！／＼／」

「お前隠し事下手だなア。この様子だとこれも確定っぽいな。何回

だ？」

「正直言ったほうが身が楽になるよ。あひや」
♪

「3回（ボソツ）」

「あひや ひや ひや ひや ひや ひや ひや ひや ひや ひや ひや……お姉さまやらしい！」

「マジで言うとは思わなかったなア。さすが超電磁砲ってどこか？」

「う、うるさい！／＼あんな奴のことなんて何とも思っていないわよ！」

「ンじゃ超電磁砲。あの三下の悪いところあげてみるよ」

「アイツの悪いところ？女垂らしですぐいろんなことに首突っ込んでフラグ立てて帰ってきてラッキースケベ連発してそれなのにまたフラグ立てて来て…でも、いざとなったら駆けつけてくれるし自分のよりも他人を優先してボロボロになってまで守ってくれるところがかっこよくって…」

「お姉さま、途中から褒めてるよってミサカはミサカは話しに参戦してみたり」

「盛大に褒めてたね」

「まさに乙女な顔してな」

「なっ……／＼と、とにかくアイツはただの女垂らしの変態！そこが悪いところ！」

[illegible]

「ねえ第1位。なんか帯電してきてるんだけど……」

「ふにゃー」

「脳波と電気信号を操作ア！」

「いや、お姉さま幸せそうな顔で気絶してるね。第1位からかうぐらい楽しかった」

「で、お姉さまはどうするの？　ってミサカはミサカはアナタに尋ねてみた」

10

「そう言つと思つたからM N Wから電話番号ゲットしたよ」

「今回はよく気がきくな。いつもそうなれよ」

『もしもし』

「オイ三下。今すぐ第7学区の〇〇ってファミレスに來い」

『あ、一方通行!?! 一体どうし』

「これでじきに來ンだろ」

「來た時の反応見たいな」

「お姉さまかわいかったよねってミサカはミサカは普段からは考えられないお姉さまの一面を思い出してみたり」

「じゃあ最後によオ、言うことあるよな」

「ん? ああゝなるほどね。確かにいいセリフだね」

「なんとなくわかったかもってミサカはミサカは以心伝心! じゃあ、せーの」

「」「」ごちそうさまでした」「」

（後書き）

ご感想宜しく願います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7728s/>

とある少女の尋問時間

2011年10月8日20時51分発行